

# ＜高齢者支援、あるいは自分が老後をどう過ごしたいか。

## 国境を超えて考える会＞

開催日：2021年12月12日（日）日本時間 20:00～21:30

### ■プログラム

内容
開会の挨拶と流れの説明
傳法清様 <b>「カナダ・トロント周辺の日系人・日本人高齢者へのアウトリーチの 24 年の体験から世界の日本人コミュニティを結ぶ方策を提案する」</b> モミジ・ヘルスケア協会コミュニティ・アウトリーチ・コーディネーター及びイーホン老人専門ケアセンター・アクティベーション専門員。 1950年9月14日福岡県飯塚市の炭鉱町に生まれる。 1973年一橋大学社会学部卒業。社会調査専攻。在学中に故石田忠教授のもと長崎の被爆者生活史調査に三年に亘って参加。被爆者の方々の生活史の聞き書きを行う。 1974年国立聴力言語障害センター聴能言語専門職員養成所卒業。同年より言語士として神奈川県総合リハビリテーション事業団言語科勤務。在職中、重症心身障害児・者のコミュニケーション・システムの開発と活用、摂食障害に対する言語前訓練と摂食指導、発達障害児童の言語学習方法の確立と県内6市町村との協力事業及び母親による自主訓練会等への支援に取り組む。 1991年8月23日スピーチ・ランゲージ・パソジストとして、当時、障害児・者へのオーギュメンタティブ・オルタナティブコミュニケーションの方法が世界の中で最も進んでいたカナダのトロントに移住。現在、妻と10歳のソラ（三代目のゴールデン retriever）が同居。長女は香港、次女はイギリスのウェールズで家庭を持つ。それぞれに長女、そして次女に長男が誕生。三児のジージ。 現職は上記。認知症者への文化的な背景を大切にプログラム作りが専門。ボランティアとしてジャムズネットカナダ理事会議長（代表歴7年）。全カナダ日系人協会全国理事会理事（2年）、現在はジャムズネットワールド・高齢者支援ネットワークをリード。 発表論文・著作等は問題意識をもって仕事にチャレンジし、一区切りついたところでまとめ発表してきている。2020年東京ジャムズネット・リレー報告「カナダにおける新型コロナウイルスの被害-続報」参照のこと。
佐藤伸彦様 <b>「日本の超高齢社会事情」</b> ものがたり診療所 所長 昭和33年東京生まれ 富山大学薬学部、医学部卒業

成田赤十字病院内科、麻生飯塚病院神経内科を経て、平成 14 年から砺波サンシャイン病院副院長。その後市立砺波総合病院地域総合診療科部長を経て、平成 21 年 4 月に医療法人社団ナラティブホームを立ち上げる。平成 22 年 4 月 1 日「ものがたり診療所」を砺波市山王町で開設。平成 24 年からは厚生労働省在宅医療連携拠点事業所として地域医療と終末期医療をキーワードに包括チーム医療を実践している。

令和 2 年 1 月 1 日。砺波市太田に拠点を移し、新たなものがたり創りをスタートさせた。

#### 所属学会

日本生命倫理学会

日本医学哲学・倫理学会

日本プライマリケア連合学会

#### 主な著書等

『家庭のような病院を－人生の最終章をあったかい空間で』

(文藝春秋、2008 年)

『患者様とお医者様－必要とする人に適切な医療を』

(日本評論社、2008 年)

『ナラティブホームの物語－終末期医療をささえる地域包括ケアのしかけ』

(医学書院、2015 年)

リッチャー美津子様

## 「スイスで生きる私のこと」

JAMSNET スイス代表。大阪府出身。

約 20 数年、看護師として臨床や訪問看護、行政技術吏員、ケアマネ、デイサービス責任者等で勤務したのち、家族の都合で 2011 年スイス東部にあるハイジの舞台の村にほど近い町に移住。

スイスで学んだ介護看護の研修を元に日本での経験を融合した介護看護の形を Pflege フレーゲと名付けて、日本の現場に伝えていきたいと 2021 年国際フレーゲ協会設立。

I F P A (International Federation of Professional Aromatherapists 国際アロマセラピスト) 免許取得。

#### 登壇者間の質問及びパネルディスカッション

1) 海外で老後を過ごすこと、日本に帰国して老後を過ごすことのリスクとベネフィット。

リスクについては、考える対策について

2) 各地域の邦人コミュニティが、高齢者の支援にどう関わっていけるか。その可能性と方法について。

3) 海外と日本の高齢者支援施設の相互交流、研修の可能性について

#### 参加者からの質問

#### 閉会の挨拶

\*\*\* 閉会后、30 分程度の参加者交流会を予定 \*\*\*